

2016年11月3日 掲載 物流ニッポン



業務面と運行便の効率化を図る

庄内支店オープン

酒田・鶴岡支店を統合

第一貨物（武藤幸規社長、山形市）が山形県三川町に建設していた「庄内支店」が完成、1日にオープンした。老朽化した酒田支店（酒田市）と鶴岡支店（鶴岡市）を統合し、その中間地点に当たる同町のみかわ産業団地内に開設。10月26日には、現地で新支店（ターミナル）の竣工式が行われた。（黒田秀男）

日本海側の主要拠点

酒田・鶴岡の両支店とも、要拠点に位置付ける。ターミナルは建築から40年以上経過し、老朽化していた。将来的な事業所展開を見据え、両拠点を統合し、日本海側ネットワークの主

要拠点に位置付ける。これにより、業務面と運行便の効率化を図り、リープアップ時には、日本海側の危機管理事業所としての機能も果たす。

区の中継基地として活用。東南海大地震など大規模災害発生時には、日本海側の危機管理事業所としての機能も果たす。

新支店は、庄内エリアの平屋建ての荷さはき場は、東西の両面を使用する

第一貨物

中央に位置する。国道7号沿いで、日本海東北自動車道・庄内空港インターチェンジに近く、酒田港にも20*の距離にある。

敷地面積が1万8660平方メートル。建物は鉄骨造り一部2階建ての準耐火建築物で、事務所とインドア方式の荷さはき場、保管庫を併設した。2階建ての事務所は延べ床面積が920平方メートル。事務スペースや会議室などを設けた。

平屋建ての荷さはき場は、東西の両面を使用する

ブラットホーム形式で、冬季の強風による風雪に対応するためインドア方式を取り入れ、西側（海側）のブラットホームを覆ったのが特色。ホームは長さ58メートル、幅31メートル、荷さはきスペースが1790平方メートル。インドア部分の幅は20メートルあり、集配車がゆったりと出入り

を30台設置。敷地構内監視用に、夜間対応カメラを導入した。このほか、強風地帯への立地を考慮し、西側の田畑に面して高さ3メートルの防風柵も立てた。

また、阿部誠三川町長、花王酒田工場の谷本均工場長、オリエンタルモーター・鶴岡カンパニーの兼村豊7人のスタッフで、全国に社長が祝辞を述べた。

できる。

また、新たなロジスティクス事業の開始に向け、保管面積が680平方メートルの一時保管庫も設置した。施設内は全てLED（発光ダイオード）照明を採用し、省エネルギーに対応。セキュリティを確保するため、デジタル監視カメラ

17の路線便を任立て、荷主500社の荷物を発送したい。よりサービスを充実させ、皆さまのお役に立ちたい」とあいさつ。